

2024年1月14日（日）「鷲のように」

イザヤ 40:27-31

27 ヤコブよ、なぜ言うのか。イスラエルよ、なぜ語るのか。

「私の道は主から隠されており、私の訴えは私の神に見過ごされている」と。

28 あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。

主は永遠の神、地の果てまで創造された方。

疲れることなく、弱ることなく、その英知は究め難い。

29 疲れた者に力を与え、勢いのない者に強さを加えられる。

30 若者も疲れ、弱り、若い男もつまずき倒れる。

31 しかし、主を待ち望む者は新たな力を得、鷲のように翼を広げて舞い上がる。

走っても弱ることがなく、歩いても疲れることはない。

【序論】

今年は二年ぶりに成人祝福礼拝を実施しております。教会内に毎年成人になる方がいらっしやるわけではありませんので実施できない年もありますが、今年は二名与えられました。お二人とも子どもの頃から関わりを持たせていただけてきましたので、感慨深いです。自分が二十歳だった頃の事を振り返り、ちょうどアイデンティティが形成され始めた大事な時期だったことを思い起こしています。恩師や友人から受けた影響も測り知れませんが、何よりも重要だったのはイエス・キリストを人格的に知ったことでした。それまで自分の心の中は不真実で満ちていましたが、キリストの真実によってそれらが一つひとつ変えられながら、今に至っております。今日は、神と共に生きる幸いを、成人されたお二人に伝えることができたと願っています。

【本論】

本論 1. イスラエルの不信仰

ヤコブよ、なぜ言うのか。イスラエルよ、なぜ語るのか。「私の道は主から隠されており、私の訴えは私の神に見過ごされている」と。(40:27)

イザヤ書は40章以降、「ヤコブ」と「イスラエル」を並べて呼びかける箇所が多く出てきますが(41:8, 14, 43:1, 22, 44:1, 21, 45:4, 46:3, 48:12)、基本的に「イスラエル全体」を指す表現です。元々は族長ヤコブがイスラエルと呼ばれるようになったのですが(創世 32:29)、それがやがて民族名となりました。イスラエル民族は神のしもべとして、神にのみ頼り神の教えに従って生きていくべき存在として立てられたのです。しかし、旧約聖書は神に信頼することに失敗したイスラエルの歴史を描いている。ここでのイスラエルへの神の語りかけ

は、イスラエルの不信仰をよく表しています。

イスラエルの人々が実際に「私の道は主から隠されており、私の訴えは私の神に見過ごされている」という言葉そのものを語っていたのかどうかは分かりません。しかし、彼らの生活態度はそのようなものだったのです。「私の道」とは「私の状態」「私の心」のことで、イスラエル民族の心がどんな状態であるかを主は知らないと言っていることになります。また後半では、何を訴えても神は聞いておられないとも言っています。神との人格的な関係が希薄で、すっかり神が見えなくなってしまっており、どうせ自分の生き方は見られてもいないし何を訴えても聞いてはくださらないという、悔り、諦め、自暴自棄な態度が現れています。彼らがいきなりそうってしまったとは考えにくく、少しずつ神から離れていったのだと思われまます。

私たちが神とのコミュニケーションが失われていくと、何をしても神には見られていない、何を語っても神には聞かれていないと、神への畏れがなくなっていきます。このことを「靈的鈍化」と言います。神への畏れがなくなると、罪意識は薄れ、神への期待も失われ、祈らなくなる。この世のことで頭の中が一杯になり、靈的なことが分からなくなってしまふ。そして、漠然とした不安感に包まれたまま、行き先を見失った状態で歩いていくことになるでしょう。

そのように彷徨い続けるイスラエルの民に、神はご自身を示されました。28 節では、神がどのような方であるかが豊かに描かれています。

本論 2. 神の属性

あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。主は永遠の神、地の果てまで創造された方。

疲れることなく、弱ることなく、その英知は究め難い。(40:28)

「永遠の神」とは、神が時間に束縛された方ではないこと、始まりも終わりもなく無限であられることを意味します。「地の果てまで創造された方」とは、神が万物の創造者であること、自分が造ったすべてのものをよく知っておられるということです。一人びとりの人間を知り、その性質も心の思いも見極め、ご自分がその人に与えた賜物が豊かに用いられ誰かのために役立てられることを願っておられる。「疲れることなく、弱ることなく」とは、30 節で人間は疲れ、弱る、脆い存在であることとの対比で語られています。

若者も疲れ、弱り、若い男もつまずき倒れる。(40:30)

私たち人間は有限な存在であり、時間も空間も制限された中にあります。肉体的には年々弱さを覚えるようになり、体力は衰え、病気は増え、見た目も老化していく。私自身も 20 代の頃のように活動できなくなり、体にもたくさんの棘を抱えるようになりました。しかし 30 節では、若者であっても人生に疲れることがあり、肉体的に弱さを覚え、立ち上がれないほどに打ちのめされてしまうことがあると言われています。天真爛漫に見える少年にも、親子間や友人関係の悩みがあったり、自分の容姿に関するコンプレックスがあったり、誰かに対する拭い難い恨みがあるかもしれません。どの世代の人でも何も問題がないということ

はなく、その時期に直面する様々な課題と向き合わなくてはならないでしょう。

神について「**その英知は究め難い**」(28節)とされているように、主は測り知れない知恵に満ち、人が歩むべき道をことごとく知っておられる。人は神から学び、その御言葉に聞き従って生きる時、しっかりとした人生の土台が築かれていくのです。大きな建物を建てるためにはそれだけ頑丈でびくともしない土台がなくはなりません。時に強風に見舞われることもある人生ですから、簡単に倒されてしまうことがないように、知恵に満ちた神のことばを土台とした人生を築き上げたい。

私の大学時代のある友人は、過酷な家庭環境の下に生まれ、親の離婚や兄弟同士の絶え間なき暴力の中で生きてきました。そのような中で育った彼は、非常に神経質などころがあり、ちょっとした物音にも反応してしまうため、寝るときは常にアイマスクと耳栓をしていました。入学した頃は目つきも鋭く、人を寄せ付けないオーラが漂い、すべての人を観察していました。しかし、彼は在学中にキリストの愛にふれ、その人間性がどんどん柔らかくなっていきました。神のことばに従って生きようとしている彼は、過去の様々な辛い経験を乗り越え、争いのあった人々と次々と和解し、揺るがぬ人生の土台を形成していきました。彼は今でも私が最も尊敬するクリスチャンの一人です。

本論 3. 神と共に生きる者に満たされるエネルギー

しかし、主を待ち望む者は新たな力を得、鷲のように翼を広げて舞い上がる。走っても弱ることがなく、歩いても疲れることはない。(40:31)

イザヤ書の中でも最も有名な聖句であり、希望とエネルギーに満ち満ちたことばです。人は誰もが、疲れ、弱り、病み、スランプに陥り、苦しみ、立ち上がれなくなることがあります。しかし、その人生に「主を待ち望む」という姿勢が入り込むとき、その人は無限の力で満たされるということです。「待ち望む」という表現は少々理解しにくいので解説しておきましょう。聖書において「待ち望む」というとき、「待つ」とは忍耐を持って待つこと、「望む」とは信頼を持って望むことを意味します。主を信頼し、期待を持って物事を見るのです。人の人生は、諦めなければ「失敗」というものはないと言われることがあります。ビジョンを持って様々なアプローチをしていくとき、うまくいかないところをたくさん通らなくてはならないでしょう。しかし、最後まで諦めなければ、その経験のすべてはゴールへの通過点にすぎなかったということになります。「主を待ち望む者」には、まさしくこのような力が与えられるのです。主が必ず自分の人生を祝福してくださると信じ、前を向いて物事に組み込んでいくならば、その人は「**鷲のように翼を広げて舞い上がる**」でしょう。

鷲という鳥は、十年に一度羽替えをするそうです。古くなった羽は、潮風に激しく吹かれることで落ちていく。じっと耐えながら古い羽が落ちるのを待つのだそうです。古い羽が落ち切って新しい羽に身が覆われたとき、以前よりも力強く、高く舞い上がります。イザヤのイメージには、このような鷲の姿があったのではないのでしょうか。人はいつでも順風満帆ではなく、どうして自分の人生にこんな辛いことが起きるのかと思うような経験をするこ

があります。誰にも理解されず、自分の中だけで葛藤し続ける時期もあるでしょう。しかし、そのような経験が与えられたならば、その時を大切にしていきたいのです。そのような時にこそ、神との激しい対話が生まれるからです。私の青年期の経験は、三十周年記念誌の中で書かせていただきました。その経験は、その人にしかない特別な神との対話の時であるはずです。他の誰でもない、その人だけに与えられた貴重な機会なのです。そして、それを乗り越える力を主は必ず与えてくださるでしょう。主を待ち望み、人生の終わりまで決して諦めることなく、今の自分にできるベストを尽くして生きていていただきたい。これが、成人となられた皆様への心からのメッセージです。

【結論】

31 節の聖句は、パウロのことばによって言い換えられてもいます。

だから、私たちは落胆しません。私たちの外なる人が朽ちるとしても、私たちの内なる人は日々新たにされていきます。（Ⅱコリント 4:16）

主に信頼する人は、日々新しい力を受けることができます。それは、決して古びることのない、神から来る無限のエネルギーです。その働きによって、私たちは前向きな気持ちが与えられ、人の目にマイナスと映る事柄さえもプラスに見えてくるでしょう。主にあって、私たちにできないことは何もないということを知るようになるのです。主の御言葉にふれる一人ひとり、日々この力に満たされて歩むことができますように。

【祈り】

慰め主なる神よ。人の一生には山も谷もあり、時に真っ暗なトンネルの中を歩いているような感覚を覚えることもあります。青年期には多くの葛藤が伴うものですが、この度成人されたお二人が、あなたとの関係の中で常に新しい力を受けて歩いていくことができるよう励ましてください。主を待ち望み、忍耐と希望とをもって進ませてください。あなたによって与えられた素晴らしい賜物を磨き、ご用のために豊かに用いていくことができますように。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、

土の器なる人間に、ご自身との関係の中で、新たなる力を与え給う、父なる神の愛、人としての弱さを知り、尚も神を待ち望むことを教え給うた、主イエス・キリストの恵み、聖徒の祈りに応え、万事を益となし給う、聖霊の親しき交わりが、あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。